

伊丹公論

復刊
第16号
通巻 35号

年4回発行
(次号は8月31日予定)

発行所
伊丹市立図書館 ことば蔵
〒664-0895
伊丹市宮ノ前3-1-4
☎072-784-8170
編集
伊丹公論編集委員会

少女時代からすでに作家だった

大阪樟蔭女子大 田辺聖子文学館が開設10周年

本市在住の芥川賞作家、田辺聖子さんの作品を所蔵する大阪樟蔭女子大附属図書館「田辺聖子文学館」が、今年で開設10周年を迎える。副館長の中周子・学芸学部教授に田辺文学や同館の魅力について寄稿いただいた。

ことば蔵の名誉館長でもある田辺聖子さんは、昭和19年(1944)から22年まで、樟蔭女子専門学校(後に大阪樟蔭女子大学)国文科に在学された。



▲文学ウォールを前に中教授(右端)から説明を聞く学生ら=田辺聖子文化館で

れました。当時は、戦争のために軍需工場へ動員されたり、大阪大空襲で生家が焼失したり、という激動の時代で、しかも父親とも死別するなど大きな悲しみの中にあっても、教員を目指して学業に励み抜群の成績をおさめて卒業されました。『しんこ細工の猿や雉』などの自伝小説や数多くのエッセイには、母校樟蔭の思い出が生き生きと描かれていいます。大好きな国文学を学びながら、文芸部の部長を務めてガリ版刷りの雑誌を作るなど、樟蔭時代は「またとなき輝かしい青春」時代だったと語られています。

ファンが資料持ち寄りミニ博物館

テルニストの喫茶「青い屋根」10周年

喫茶店に宮本輝さんの著書を並べる「青い屋根」オーナーの寺田さん



市内在住の芥川賞作家、宮本輝さんのファン(テルニスト)が集う喫茶店が阪急新伊丹駅の近くにあり、今年8月に開店10周年を迎える。

この店の名は「青い屋根」。名のとおり青色の屋根が目印だ。オーナーの寺田憲治さん(70)は新伊丹駅前前で囲碁や将棋のサロンを経営したあと、平成19年に現在地に「青い屋根」を開いた。青は寺田さんのラッキーカラーという。

「田辺聖子文学館」を開設しました。今年で10周年を迎えます。文学館の入り口からまっすぐ前方に見える壁面は、田辺作品を一望できる文学ウォールになっていきます。年代順に実物の本が並べられており、凝った装丁も見応えがあります。また、生誕から現在に至る田辺さんの人生と業績の軌跡をたどれる展示を中心に、世界観が分かる愛蔵品を並べ、書齋やホーム・バーの「バー・カモカ」も再現しました。ここでは田辺作品の風景の紹介や田辺さんの講演を見聞していただけます。

本館の大きな特徴は、田辺家から寄託された貴重な少女時代の作品を展示していることです。田辺聖子は十代の頃から、友人読者に向けて盛んに短歌や詩や小説を書いていました。変色した原稿用紙や色あせた表紙の大学ノートや、インクの滲んだ手作り雑誌に書かれた作品を眺めていると、少女の作文や手作り雑誌が戦争のさなかで大切に守り続けられたこと、それらの作品を戦火の下でも残そうとした強い意志に感動をおぼえます。近年、樟蔭女専時代の作品「十七のころ」と題したルーズリーフにペン書きされた短編が発見されました。文章も内容も読み応えがあり、天性の作家だということを証明するような作品です。

田辺聖子さん少女時代の未発表小説に触れる

6月10日にことば蔵で記念講演

田辺聖子さんが樟蔭女子専門学校時代に書いた未発表小説について解説する記念講演「田辺聖子・少女時代の作品」「十七のころ」を6月10日(土)午後2時からことば蔵で開催します。



「十七のころ」は、関係者でも所在がわからなかった。また、ルーズリーフに書かれた同作品の複製が9月までことば蔵の伊丹作家コーナーに展示されています(入場無料)。文学少女だった田辺さんの執筆への情熱に触れてみてください。

【田辺聖子文学館ジュニア文学賞】全国の中学高校生に表現する楽しさを知ってもらい、また、その作品を発表する機会となることを目的として創設した賞。中高生を対象に小説・エッセイ・読書体験記の3部門を募集している。昨年度は5184作品の応募があった。今年度は第10回。締め切りは平成29年10月20日。

詳しい応募要領は同館ホームページ(左のQRコードから読み取り可)に記載されている。問い合わせは同館 ☎06-6723-8182 へ。



「郷土研究伊丹公論」は、私立伊丹図書館を開設した小林枝吉(筆名「丹城」)が、昭和11年(1936)1月20日に創刊し、19号まで発行された地域紙。ことば蔵では、伊丹公論を73年ぶりに復刊し、伊丹の歴史・文化を全国に発信するため、市民と共に発行しています。

郷土史
ことば蔵
16
猪名川の「軍行橋」の由来は



1934年に改築された軍行橋の開通式(伊丹市立博物館所蔵)

猪名川に架かる国道171号の「軍行橋」。いかめしいその名の由来を皆に聞かれるが、うまく答えられない。国道事務所に尋ねても不明だし、伊丹市史にも載っていない。全国にも例がない橋の名である。念のため「伊丹古絵図集成」(昭和57年発行)で明治以降の地形図をたどって

みると、明治18・19年図では道路の形で描かれ、大正2年図でははつきりと「軍行橋」と記載されている。池田市神田弥生会発行(2002年)の資料によると、明治42年の地図では軍行橋の名はあるものの川幅を完全にまたぐのではなく、水の流れる西側半分だけに橋があるという。

明治44年(1911)11月陸軍の東西対抗大演習が、伊丹(猪名川)・西宮甲東(武庫川)・豊中など北摂平野を舞台に3日間に行われた。渡河作戦を含め演習兵力は1万人。大正天皇(皇太子の頃)が観閲、乃木希典統監のもとで多くの外国武官も見学し全国の耳目を集めた。伊丹町は町民挙げて大歓迎。当時の新聞を見ると「軍行橋は、本年8月新設せられしも



おすすめ本を手を受賞を喜ぶ安東さん

「軍行橋から石橋へんに玉坂という谷合があつて、そこは演習するの一番良いところで、ドイツ式の陸軍演習でマイケル將軍がドイツからやってきて、初めてそこで演習させたので軍行橋といつたのですね」(1974年発行「地域研究いたみ」第2号)

長年の課題として追いかけていたが、この発見は嬉しかった。これには後日談があるが、次に改めて話そう。

「郷土史研究者 森本啓一」

県指定重要無形民俗文化財
むぎわら音頭
保存会設立50周年

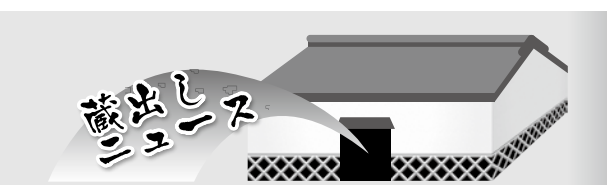


むぎわら音頭を踊る坂本さん=南野参集殿前で

昭和52年(1977)、

本市の伝統芸能「むぎわら音頭」(撰州兵庫功德盆踊り)の保存活動に取り組み「むぎわら音頭保存会」(会員40人)が今年5月、設立から50年を迎えた。

むぎわら音頭は奈良時代の名僧行基が稲野笹原の開発に際し、開発に従事した労働者の慰労と供養を兼ねて踊った念仏踊りが始まりと言い伝えられている。麦を刈る、網を投げるといった日々の労働の仕草や、カエルやカマキリなどの身近な生物の動きを取り入れているのが特徴で、現在の踊りは死者の霊を弔う盆踊りとして江戸時代中頃に完成したと考えられている。



「蔵出し」

しおりんピック金メダルに榮さん
おすすめ本総選挙センター本に安東さん

ことば蔵はこのほど、本しおりんの出来栄を競う「第3回しおりんピック」の金メダルに鹿兒島市のアルバイト、榮伊帆さん(25)、来館者の投票でおすすめ本ナンバワーを決定する「第3回KTB(蔵)おすすめ本総選挙」のセンター本に伊丹市のパート、安東優汰さん(24)をそれぞれ選んだ。

しおりんピックには、全国から396点の応募があり、市芸術家協会

代表幹事、北里桂一さんが審査した。他の入賞者は次のとおり。▽銀メダル 長崎市の三浦佳南子さん、静岡市の白鳥莉恵さん▽銅メダル 千葉県の白鳥明良さん▽来館者の投票で決まる「ことば蔵賞」 東京都東大和市の南雲真優さん

KTBおすすめ本総選挙は、他の人にお薦めしたい本の推薦文を募集し、例年、来館者に推薦文を読んで一番読みたくなった本(推し本)に1票を投じてもらい、「センター本」を決定しているが、今回は全国から134点もの応募があったため、応募作品を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国・九州の5地区に分け、来館者に地区ごとに投票してもらった。

そして各地区で最も投票数の多かった7作品を「神セブン」とし、さらにその7作品で投票を実施し、投票総数112票のうち41票を獲得した安東さんのおすすめ本「Re・ゼロから始める異世界生活」(長月達平著/MF文庫J)が「センター本」に選ばれた。安東さんは「悪役のベテルギウスというキャラクターの狂気じみたところが好き。とても

人気の本なので、みんなにおすすめしたい」と話している。推薦文は以下のとおり。

私がおすすする本は、『Re・ゼロから始める異世界生活』(公式略称「リゼロ」)です。この作品のジャンルは、「異世界ファンタジー」と「ループもの」を混ぜた小説です。あらすじは、突然異世界へ召喚された主人公ナツキ・スバルの死亡と共に時間を巻き戻す能力(作中では「死に戻り」と表現されている)だけを得た無力な少年の運命に抗う奮闘ぶりを描いた物語です。

私が「リゼロ」をおすすするポイント、2016年4月から同年9月の期間でテレビアニメとして放送されたところです。したがって、まずは動画サイトでテレビアニメ「リゼロ」を見て、各キャラクター(特に、魔女教・大罪司教「怠惰」担当ベテルギウス・ロマネコンティ)の演技力と、主人公ナツキ・スバルが「死に戻り」する際、どの時間まで戻ってしまうのか、というドキドキ感を体感した後に原作「リゼロ」を読むことをおすすめします。

人々の想いと伝統をつなぐ

県指定重要無形民俗文化財に指定。現在、県が指定する文化財で盆踊りの名で指定されているのは、むぎわら音頭だけである。

戦前、伊丹市南部や尼崎市北部で盛んに踊られていたが、戦後になつてほとんどの地域で途絶えた。活動が盛んだった伊丹市南野でも、同様の状況となったが、昭和30年代後半に昔の踊りを知る人たちが復活を計画、音頭を覚えていた唯一の継承者である故酒井留三郎さんなどの協力により昭和42年5月11日、保存会を結成した。今も毎月1回、メンバーが集まって踊りの練習をしている。

保存会発起人の一人、坂本常泰さん(94)は、今も現役の踊り手。祖父がむぎわら音頭の三味線弾きで、父も戦前、むぎわら音頭の世話人をするなど関わりが深かった。「昔は、田植えが終わったら、箱ずしを持ち寄って庭の床の周りでむぎわらを踊り、お盆の本番に備えたものです」と振り返る。しかし戦後は、三味線や太鼓、音頭で踊る本来のむぎわら

音頭が姿を消し、レコード曲で各々が自由に踊っていた。「これでは本来の踊りがすたれてしまう。正しく伝えていきたい」という思いで保存会結成に動いたという。

境清美会長(73)は「踊り子が、むぎわら音頭の特徴を生かしそつと踊る姿は本当に美しく感動的。50

年の節目を迎え、未来に伝えていきたいという思いを新たにしています」と話している。

昭和46年に結成された南野文化財愛護少年団(会員19人)もむぎわら音頭の継承に取り組んでおり、保存会から二人の指導員を迎え活動している。

子どもたちに家族と踊った記憶や日々の生活、先祖への想い、そうした一人ひとりの想いが伝統をつないでいる。

盆踊りは、毎年8月15・16両日、南野東浦公園(南野3丁目3番)で開催される。

(丸晴子)

伊丹で養成の災害救助犬たち 世界の被災地で活躍



平成26年の広島土砂災害で活躍する日本レスキュー協会の災害救助犬

その鋭い嗅覚で、がれきなどに埋もれた人を探し出す災害救助犬。世界で大災害が起こるたびに活動するので、活躍ぶりをテレビなどで目にした方は多いだろうが、その訓練施設の一つが伊丹市内にあることをご存じだろうか。

特定非営利活動法人日本レスキュー協会の一部門として、平成7年(1995)9月1日に大阪市内に開設されたあと、平成15年9月1日、現在の伊丹市下河原に移った。

開設から昨年4月の熊本地震まで、海外を含め計31回出動。死者74人を出した平成26年8月の広島土砂災害では、救助犬によって遺体を1体発見している。また、平成13年のインド西部大地震では、2頭の救助犬によって、生存者1名、遺体5体を発見している。

同協会は災害救助犬だけでなく、精神的な痛手を受けた人々を癒すセラピードッグも養成。被災地や福祉施設、学校、病院などへ年間200回以上訪問している。東日本大震災翌年の平成24年には、台風12号の被災地も含め延べ19頭が訪問、人々の心の復興をお手伝いした。

今年4月23日には、ことば蔵で子どもたちが日本レスキュー協会のセラピードッグに本を読み聞かせるイベントが行われた。

欧米では読書介助犬と呼ばれる、静かに読み聞かせを聞く訓練を受けた犬による活動が学校や図書館で普及している。人前で音読するのが苦手な子どもが、笑ったりせずじつと聞いてくれる犬に本の読み聞かせを繰り返すことで、自信をつけたり本が好きになる効果があるという。

災害救助犬やセラピードッグに向く性質は人が好きで、大きな音に動揺しない、色々なことに興味や関心があることだ。災害救助犬は血統がいいことも条件の一つで、行動する意欲を高めるために去勢や避妊手術を行わないこともある。一方、セラピードッグは、人に対して興味を持ち、おだやかな性格をしていることが条件として挙げられる。

現代人物 風景

若いころに自分の思い描いた職業を選ばなかった場合、多くの人は生活を優先して実現をあきらめてしまっただろう。しかし、この人は著名な学者(理学博士)でありながら、定年前に退職、夢の実現に挑戦した。

高校時代、一番成績の良かった科目は美術。将来は日本画家になりた

かった。しかし、担任の先生から「芸術では飯を食っていけないぞ」と強く諭され、東京大学理学部へ進学。大学院から神戸大学の助手を経て大阪大学教授となり、隕石の中にダイヤモンドが含まれる原因などを研究、隕石研究の第

博士は多彩な芸術家

写真協力=西田写真館



大阪大学名誉教授 松田 准一さん (68)

一人者としてその名が知られた。科学の世界で大活躍していたが、定年より1年早く退職、平成24年(2012)に東京藝術大学美術学部芸術学科を受験した。

「シュリーマンの夢じゃないですけど、若いころに憧れた夢をどうしてもあきらめられなかったんです」と松田さん。二度目の挑戦で狭き門を突破して見事合格、教える側から教えられる立場に変わった。若い同級生たちとの何気ない学生生活は、新鮮な日々だった。

「惑星科学」を出版。これがわかりやすいと評判になる。

「理科離れが進む若い人を意識しながら、隕石のことを人々にもっと知ってもらいたいと思って本を出したんです」と、目を輝かせた。

松田さんは、地球科学の研究者でもある。「昨今、世界のあちこちで地震や火山の活動が盛んになっているので」と、今年2月に2冊目の「地震・火山や生物でわかる地球の科学」を出版し、こちらも好評だ。

しかし、人生は思うようにはいかない。家族や親戚の介護のため3年でやむなく退学した。

とはいえ藝大で学んだことはしっかりと身につけていた。平成25年、自身の描いたイラストを多用した『隕石でわかる宇宙

「伊丹公論」生みの親である小林杖吉も大阪大学の元教授で、三余学寮という私塾を伊丹市宮ノ前で開催していた。ことば蔵は7月30日に松田さんを講師に三余学寮を開催し、隕石のお話をいただきました。詳しくは、ことば蔵へ。

犬の訓練には生まれてから約3年を要し、8歳頃に引退する。そのため、たった5年間しか活動できない。また1頭の育成にかかる費用は、年

間約100万円にのぼる。この費用や派遣の費用は全て寄附金で成り立っている。

世界に貢献する、こんな非営利団

体が伊丹にあることに市民として誇りを持ちたい。

問い合わせは同協会072・770・4900へ。(細尾哲也)

郷土産品紹介 冷やしておいしいデザート感覚のパン「白いあんぱん」

国産小麦しか使わない、こだわりのパン屋さんが昆陽泉町にある。フレッシユベーカーイックランツ。この店の一番の人気商品が「白いあんぱん」だ。

白いパン生地の中に、粒あんと生クリームを詰め込んだあんぱんだが、原料へのこだわりが驚く。北海道産ブランド小麦「春よ恋」、十勝小麦、よつ葉バター、奄美諸島産サトウキビ糖「喜美良」、「赤

穂の塩」...もちもちのパン生地に上品な甘さの粒あんと生クリームが絶妙なハーモニーを奏で「うまい」と思わず声が出た。常温でもおいしいが、冷やすとなおおいしい。

この店の原料へのこだわりは、全商品に共通している。人気ナンバー1の「白いクリームパン」は、北海道産牛乳、マダガスカル産バナラビーンズなどを使用。しかし、原料が一流だからと言って価格も一流では庶民は食べられない。この店は子どもが買える値段にと、価格設定をなるべく低くするように努力している。

社長の倉富圭介さんは「日本人の好みに合った、主食にふさわしい日本のパンをいつか作ることが夢」と話している。

「白いあんぱん」「白いクリームパン」は、JR伊丹駅2階の市立観光物産ギャラリーでも買える(数量限定)。(細尾哲也)



関西の百貨店から催しへの引き

伊丹市昆陽泉町1-2-15
☎072・783・0116

老舗探訪

だいせ 大清呉服店

伊丹市伊丹3丁目9番28号
☎072-782-3125

創業190年。江戸時代後期から続いている老舗の呉服店だ。当時の屋号「大坂屋」と初代店主、清兵衛の名から「大清呉服店」と名づけられた。

店主は6代目の藤坂芳宏さん(82)。芳宏さんが10代のころ、伊丹郷町南の街道筋(現・伊丹3丁目付近)から宮前通り、現在の伊丹アイフォニックホール辺りへ店を移した。当時は従業員が10人を超えるほど繁盛しており、着物だけでなく防寒着の丹前や半纏もよく売れた。

しかし昭和30年(1955)、宮ノ前商店街で大火災が発生。商品の呉服は何と持ち出せたが、店と住居は全焼。思い出の品も明日着る衣類も焼けてしまった。

そこから数年後には店を建て直し、平成2年にまた元の地へ戻ってきた。現在は次男の智彦さん(49)と店を切り盛りしている。

ど繁盛しており、着物だけでなく防寒着の丹前や半纏もよく売れた。商店街には呉服屋がいくつもあった。年末には「せいもん払い」といわれる、年に一度の大売出しが毎年行われ、商店街全体が活気づいていた

現在祭事用の法被などを主に販売しているが、成人式や七五三などで使われる着物もレンタルが増えてきた。今は、婦人服やカタログギフトも扱っている。

芳宏さんは「これからどんな商品を扱って、店をどうしていくのかは次男に任せている。ただ、190年続いできた大清の名前は守り続けてほしい」と話している。

伊丹俳壇

「青田」坪内稔典 選
(佛教大学・京都教育大学名誉教授
柿衛文庫也雲軒塾頭)

最優秀賞

公民館のチアダンスや青田風 小松 房子 (伊丹市)

チアダンスをしているのは、もしかしたら昔の早乙女たちが青田の世話をする女たちが跳びはねていると想像するととても楽しい。青田は故郷を想わせる季語入選句には望郷の風景が並んだ。

優秀賞

中学生なつたばかりの青田かな 横溝麻志穂 (宮城県仙台市)
八十路なる兄の鋤たる青田なり 黒田 智子 (神戸市西区)
ふるさとや青田のほうへ向く生家 戸川富士子 (大阪府豊中市)
ペダル漕ぐ制服揺らす青田風 松井 幸子 (山形県鶴岡市)
ただ風に従つてゐる青田かな えんどうけいこ (埼玉県狭山市)

伊丹歌壇

「パン」尾崎まゆみ 選
(「玲瓏」選者。神戸新聞文芸短歌選者。現代歌人協会会員)

最優秀賞

震災後味を気にせず食べた。パン腹を満たせぬ避難所の夜 横溝麻志穂 (宮城県仙台市)

パンを食べると思ひ出すことがある。たとえば震災の後、夜の避難所で食べたパン。食べてもみたされなかったのは、空腹だけではない。あの時の気持ちを忘れないように、短歌に閉じ込めて保管する。

優秀賞

脳内に「ポレロ」を循環させながらパン教室で生地をこねてる 小林 礼歩 (東京都西東京市)
紀伊國屋書店もパン屋四軒も未だ健在小さきわが街 山本 伸子 (神戸市西区)

雨の日は雨の香りを閉じ込めてクロワッサンは膨らんでいく 近藤きつね (群馬県高崎市)

少しだけさみ思ひ出すジャム付きのまあるいパンのやわらかさから 六月さかな (滋賀県大津市)
パンドラの箱を開けたり真夜中のレスポワールが冷蔵庫に居り 須磨 螢 (神奈川県鎌倉市)

次回の兼題は、俳壇は「金魚」、歌壇は「花火」とします。応募は1人各1作品、自作未発表作品に限る。応募締切は、来年7月15日(必着)。最優秀賞には図書券千円進呈。左のQRコードを利用すると、ケータイからも応募できる。問い合わせは、ことば蔵へ。



田辺聖子さん・宮本輝さん 著書の人気投票

1位は「夕ごはんたべた?」「泥の河」

ことば蔵はこのほど、伊丹市在住の芥川賞作家、田辺聖子さん(3月27日生まれ)と同、宮本輝さん(3月6日生まれ)の誕生日である3月を「バースデイズ月間」とし、来館者による両作家の作品の人気投票を行った。投票の結果は以下のとおり。

- 【田辺聖子さん】
- 1位「夕ごはんたべた?」
- 2位「文車日記」
- 3位「夜明けのさよなら」
- 【宮本輝さん】
- 1位「泥の河」
- 2位「錦繡」
- 3位「森の中の海」



田辺作品1位「夕ごはんたべた?」は昭和50年(1975)発行。身勝手な子どもたちに悩まされる町医者夫婦の素朴な人生を描いた作品で、「反抗期の僕にぴったりの本」という理由などで選ばれた。

宮本作品1位「泥の河」は、太宰治賞を受賞し作家デビューすることとなった昭和52年(1977)発行の作品。4年後には映画化もされた。「生ぐさいところがいい」という理由などで選ばれた。

両作家の著書はすべて、ことば蔵2階の「伊丹作家コーナー」に写真Ⅱで展示している。3階書架にある著書は貸出可(図書館利用券が必要)。

15号お詫びと訂正

本紙15号(平成29年3月31日発行)4面掲載の「元おかみのきまぐれコラム」に誤りがありました。お詫びするとともに左記のとおり訂正いたします。

誤「70歳になったとき、役所から市バスの特別乗車証が送られてきた」
正「70歳になって、役所へ市バスの特別乗車証交付の手続きをしてきた」



林やよい
伊丹市在住。毎日新聞兵庫版にイラストエッセイ「くるまいますまいる」を連載中。



ことば蔵名誉館長、田辺聖子さんの『千すじの黒髪 わが愛の興謝野晶子』を読んでいると、次のような表現がありました。「口あたりのいい、また、目で読んでも耳で聴いても美しい歌」

英語では、どのように表現されているのか気になります。

英訳版: *A Thousand Strands of Black Hair* by Meredith McKinney では、

“poems beautiful both to the eye and to the ear”
となっています。直訳すると、「目と耳の両方に対して美しい詩」です。「口あたりのいい」が英訳されていません。この場合は「読みやすい」「口調がよい」という意味でしょうから、濱が英訳すると easy to read aloud (朗読しやすい / 口に出して読みやすい) や pleasant to the mouth (口に心地よい) くらいでしょうか。

語順的には、poems の後ろに 関係代名詞 (主格) + be 動詞 (are) が省略されていると考えればよいでしょう。

原文: 「私は国文科のくせに、外国の名作古典の翻訳ばかり読んでいた」
英語版: Although I was enrolled to study my own country's literature, in fact I spent my time reading translations of foreign classics.

直訳すると、「私は自分の国の文学を研究するために入学を許されたけれども、実のところ、外国の古典の翻訳ものを時間をかけて読んでいた」となります。「国文科」が「自分の国の文学」、「～のくせに」が「～だけれども」というように見事に工夫されています。

紙面の都合でほんの少しの紹介となりましたが、日英共に名文ですので、是非お読みいただきたいと思います。

(濱昌央)



▼プレミアムフライデー
こんなことを言うと笑われるが、その昔「花金」という言葉があった。「花の金曜日」の略で、週休二日制が浸透して、土曜日が休日になる企業が多くなったので、金曜日の晩に遊んで(主に飲み歩きして)楽しむことだ。時代が変わり、「花金」が

▼新人職員と戯れて
フレッシュと言えば今回のイラストは、昨年の忘年会の模様。「平野ノラ」に扮した新人職員とのツーショット。



死語になり、この2月から「プレミアムフライデー」(「プレ金」というらしい)という、経済界が推奨する個人消費キャンペーンが始まった。「ほんとに15時で帰れるのか」「3月なんか年度末日の31日やったで」などと批判するのはよそう。これから暑くなる。昼間の暑さと戦っていた身体と頭に、ほっと一息つかせてくれる爽やかでフレッシュな「夏の生酒」を飲もうではないか!

うまい棒的なものを二人でくわえて「ポッキーゲーム」にチャレンジした爆笑?写真から描いてもらった。もちろん、女性とはできないので、相手は男性職員(笑)。イケメンなので、めちゃ似合ってたな。ただ、ウケ狙いで、ゲームに付きあわせてしまった。反省。

(ときわ喜多)